小倉鐵樹（きぐらてつじゅ）居士。慶應元年越後國西頸城郡生れ、昭和十九年四月歿（一八六五―一九四四）。共立學校で洋學を、二松學舎で漢學を修め、山岡鐵舟に師事した。京都を始め諸處の禪門で參禪、半屋財權現の堂守となる。大正十一年豐多摩郡野方村に禊（みそぎ）と禪修行の一九會道場が建てられ常住。のち鎌倉の鐵樹庵に移り、古稀を過ぎた昭和十二年、その德を慕つて身邊の世話を希望した閨秀畫家溝上遊龜と結婚した。

著書『山岡鐵舟を語る』（内題「師（おれが）匠山岡鐵舟を語る」石津寛牛山榮治手記、昭和十七年四月二十日井田書店）。